

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292500020		
法人名	株式会社 MOUNT FLOW		
事業所名	クララ清流		
所在地	千葉県流山市古間木313-21		
自己評価作成日	平成22年2月8日	評価結果市町村受理日	平成22年5月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成22年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達クララ清流は 1、寝たきりにさせない 2、メリハリをつけた生活リズムの継続 3、残存機能を活かして、出来る事はご自分で を合言葉に、利用者の皆様がひとりの人間としての尊厳と心の平安を最後まで維持して頂けるよう、スタッフ一同心をこめて取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは4年前、ホーム長の「理想の介護を実現したい」との熱い思いに、ご主人である法人の代表者の全面的賛同を得て設立したグループホームである。自然に恵まれた住宅地の中にホーム長の豊富な介護経験から設計、建設し、設備面でも細部に至るまで、利用者本位に考慮された広くて明るい施設である。利用者は90歳前後の方が中心であるがそれぞれ自分の役割を持ち、身だしなみにも配慮して元気に暮らしている方が多い。毎日、機能訓練を取り入れたアクティビティーに特に力を入れるとともに、天気の良い日は体力に応じて30分～1時間程度近くの公園等へ地域住民と挨拶を交わしながらの散歩が日課となっており、元気で地域とも親しい関係ができるように努めている。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をつくりそれに元にスタッフ一同共有して行動している。	「利用者を尊い存在として大切に思う心を持って介護に携る」ことを理念として設立したグループホームであり、ホーム長のリーダーシップの下、入社時の研修や定例会議等でも理念の共有を最重視して、実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日日課になっている散歩時に近隣との挨拶や会話などで交流を深めている。	自治会にも加入し地域の行事やホームの行事等を通じて交流し合う関係が出来ている。日常的にも毎日の散歩時の近隣の方との会話や、時々近隣の方を招いての「お茶会」を行うなど地域の一員として自然な形で交流が出来ている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣とのお茶会を通して認知症との接し方など意見交換などを設けている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議後スタッフミーティング上で今後サービス向上に活かせるように話し合っている。	運営推進会議は3ヶ月に1度、開催日時を10日14時からと決めて定期的に開催しており、毎回ほとんどの利用者家族が参加している。また、外部からも流山市東部包括支援センター職員、自治会長、民生委員などの参加を得て、ホームの運営状況などにつき、熱心に話合っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	進んで市町村の会議に参加している。オ-ナ-会議などで情報交換をしている。	市の主催するグループホームオーナー会議等に積極的に参加し交流をはかるとともに、市の担当部門には随時各種相談を持ちかけたり、ホームの空き情報の提供を行なうなど何でも話せる関係を作っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ一同資料を一読し理解しあい身体拘束はしていない。	現在基本的には身体拘束が必要な利用者はいない。しかし、定例会議の時に認知症研修の一環として、夜間の安全対策や不穏時の対応方法等につき、具体的な事例を上げて話し合っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ一同理解しあって防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後は勉強会などを開き支援できるようにしていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族様には納得いくまで十分な説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者ならびにスタッフと御家族様との話を頻繁に設けている。	来訪の多い家族とはその都度話合っているが、来訪の少ない家族も運営推進会議には参加するので、その機会を大切に情報交換し対応している。介護計画の作成や見直し時には必ず家族と話し合い、希望を取り入れて作成している。	運営推進会議を重視し開催頻度を増やす方向を検討されているので、時には家族との交流を中心とした家族会的な雰囲気の間作りなども検討をお願いしたい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングを開き改善点などを話あっている。	ホーム長はオープンで温かみのある運営を目指しており、スタッフは気軽に意見が言える関係にある。提案事項は都度関係者でミーティングを行い、即決で解決することが多いが、全体で話合う事項については定例会議で話し合っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に何回か個人面接を開いている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を受ける機会を多く設けたり現場にて指導している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は会議など参加しているが今後は職員も交流する機会を設けていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者と行動を共にし良く話しを傾聴し入居者との関係は良好である。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族から要望や不安な事など聴く機会を設けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	極力努めるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ一同人生の先輩として接していていい関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	傾聴しながら本人と御家族様との関係が良いものになるように支援している		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎日の生活の中で明るく安心感を与える環境作りを心がけている。今後は馴染みの人の訪問を多く受け入れていきたい。	遠隔地から呼び寄せて入居している利用者がほとんどで、馴染みの関係の継続は難しい為、ホームでの生活に慣れ親んでもらう方に力点を置いている。新しい入居者には歓迎の意味をこめて花を飾ったり、毎朝の散歩の時地域の方と挨拶を交わし、早く馴染みの場所になるように支援している。	馴染みの友人、知人からの電話や訪問、手紙等での連絡の受け入れや、お墓参りなどが、家族等の協力を得ながら、少しでも増えることを期待したい。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフ一同適切な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報交換に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を聞き把握し困難な場合は見守りや話し合いをしている。	職員は利用者と同じ目線で会話や行動を共にすることで、思いや希望を把握している。帰宅願望の利用者も安定出来るように、落ち着くまで夜間もゆっくり話を聴くことで、意向を汲み取っている。又、家族との連絡を密にして利用者の思いを把握できるように努めている。	利用者家族のアンケートで「思いや願い、要望がわかってきていますか？」の設問に対する評価が昨年より少し下がっているのので、検討をお願いしたい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活や環境等を毎日の生活の中から聞き毎日が過ごしやすいうように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケア、記録等を通して一人ひとりの現状を把握して対応することを心がけている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限りの情報は集めようと努力して計画作成を行っているがまだ十分ではない。	利用者の心身の状況、家族からの意向が詳細に記載された情報シートなどをもとに介護計画を作成している。ケア会議は2ヵ月に一度だが、新規の利用者や緊急な見直しには、ケア会議、モニタリングを繰り返し本人に最適な介護計画になるよう努力し、家族の同意を得ている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を元に日々の様子を把握し、職員同士情報を共有し合っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や御家族様の状況、要望に応じて柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今後は活用を工夫していきたい。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院と連携を取り支援している。	利用者、家族との話し合いで協力病院をかかりつけ医としている。当ホームには毎月2回、協力病院から、訪問診療があり体調の維持管理に努めている。緊急時の対応の連携も密にとれており安心できる体制にある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホ - ムドクタ - に詳しい情報を送り適切な受診が出来る様に支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については協力病院と連携をとっている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診の医師や御家族様と話し合い方針の共有化を図っている。	重度化や終末期については、利用者、家族と相談しながらホームとして出来る限りの対応をするように職員と方針を共有している。医療処置が必要な場合には協力病院と連携を取り、緊急入院や夜間の医師の往診も受けられるようになっていく。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員一同支援を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練などや地域の方との連携は出来ている。	災害を想定して避難訓練は消防署立会いも含めて年2回行い、地域の防災訓練にも積極的に参加し、民生委員や地域住民からも協力を得られる関係にある。所定の防災やセキュリティー設備も完備し、職員の役割分担もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一番心がけていることで対応している。	利用者の人格の尊重はホームの理念として最も大切にしている事項であり、職員全員で心掛け実践に努めている。新規採用者には特に言葉遣いとプライバシーに配慮した介護が徹底して出来るよう指導をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が話しやすいように心がけて希望を聞いたり助言できるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時御自分で出来る方はゆっくりと居室で整容されている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御入居者様個々に分担を決め楽しみながら協力しあっている。	利用者は自分の茶碗と箸で食事をしており、家庭の食卓を思わせる。配膳や片付けも能力に応じて役割を持ち、楽しんで行っている。行事や誕生会の食事は利用者の希望を取り入れた献立になっている。外食も年数回しており、近くの喫茶店にも出かけ楽しみにしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量やチェック票等で把握している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず口腔ケアを実施し一人ひとり観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック票を付け一人ひとり支援している。	24時間記録できる詳細な排泄チェック票をもとに、職員が利用者一人ひとりの習慣を把握した上でトイレに誘導している。オムツはなるべくさせない方針の下、夜間もパットやりハビリパンツで対応している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック票を付け個々に予防している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	楽しんで入浴して頂くように努めている。	浴室と脱衣室は完全にフラットで、浴槽も左右に可動式にする等、安全かつゆったりと入浴・介助が出来るよう工夫されている。入浴日は夏季は週3回、冬季は週2回で午前中に行っているが、利用者からの希望があれば回数を増やすことも考慮中である。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して睡眠出切るように働きかけをしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者がきちんと把握し一人ひとり決められた服薬を間違いなく服用している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった手伝いやゲ - ム談話、散歩など季節の移り代わり等を話実行している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出て空気を感じることに、風に当たること、地域の人々の交流など散歩を日課にしている。	ホームの周辺は自然に恵まれた環境にあり、散歩は天候のゆるすかぎり日課としている。建物周辺だけを散歩する人や、近くの公園や町内近辺まで出かけ30分以上歩く利用者もいる。地域の桜祭りや夏祭りにも参加し住民との交流も深い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援は行っているが完全ではない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援はしているが不完全ではある。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に居心地よく生活できるよ共用の空間を清潔に保ち共に清掃にも参加していただき季節感をとりいれている。	居間兼食堂は吹き抜けで明るく、広さもゆったりしている。広いトイレと、廊下、施設内の家具なども淡いピンク色を基調としており、温かみを感じる。換気には特に配慮が見られ、また施設内全体が清潔で整理、清掃が行き届き利用者家族アンケートでも好評である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った御入居者様同士談話するリビングで過ごしていただくような空間を工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や衣類などを居室に置くように工夫している。	居室には備え付けのベッドの他、利用者家族の判断で衣装ケースや整理ダンス・テレビ等身の回りの物が持ち込まれている。壁には手作りのカレンダー、写真、なども張られており、過ごしやすくなっている。又居室も共用空間と同様に清掃が行き届いている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを付けて廊下を広く取り余裕を持って歩行出切るように工夫しベランダには物干しを置き洗濯物を干したりなど工夫している。		